

この空の下で  
生きていく

～世界でたった一人のあなたへ～

## 生きる 谷川 俊太郎

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

木もれ陽がまぶしいということ

ふっと或るメロディを

思い出すということ

くしゃみをする事

あなたと手をつなぐこと

生きているということ

いま生きているということ

それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものに

出会うということ

そして

かくされた悪を

注意深くこぼむこと

生きているということ

いま生きているということ

泣けるということ

笑えるということ

怒れるということ

自由ということ

生きているということ

いま生きているということ

いま遠くで犬が吠えるということ

いま地球が廻っているということ

いまどこかで産声があがるということ

いまどこかで兵士が傷つくということ

いまぶらんこがゆれているということ

いまいまが過ぎてゆくこと

生きているということ

いま生きているということ

鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりははうということ

人は愛するということ

あなたの手のぬくみ

いのちということ

はじめに

生きるって何だろう。

いのちって何だろう。

こたえはそれぞれちがうでしょう。

みんなちがっていいのです。

みんな大切な一人です。

けれど、みんなどこかでつながって、

今日という日を生きています。

ないたり、わらったり、

くやしがりたり、よろこんだり。

いろんな朝をむかえながら、

明日からも生きていく。

あなたと同じ空を見あげて、

生きぬいている人たちの言葉に

心をかたむけてみませんか。

ちょっと元気がほしいとき、

ちょっと勇気がほしいとき、

ページを開いてみてください。

この空の下で

生きとし生けるすべての人へ、

この一冊を贈ります。

# 目次

生きる	谷川 俊太郎	02
はじめに		04
子どもの白紙の魂に、生きるよろこびを伝えたい	やなせ たかし	08
人それぞれの「あきらめない」がきつとある	西城 秀樹	12
「ありがとう」の気持ち、挑戦する勇気を忘れない	川嶋 あい	16

## ◎新たないのちと生きていく

「由貴、ありがとう」	呉市立二河中学校 1年	石原 謙一	20
「すてきな命」	呉市立宮原中学校 2年	楠 美月	24
いのちの誕生と成長を見守る日々	助産師	西田 啓子	28

## ◎ちがいをこえて生きていく

「みんなとわたし」	東広島市立松賀中学校 3年	原田 由樹	32
「感じる手で」	呉市立宮原中学校 3年	市村 麻実	36
声で伝える、心がつながる音訳ボランティア	音訳ボランティア	む つ み 会	40

## ◎あきらめないで生きていく

- 「自分を受け入れる」————— 広島市立落合中学校 1年 山本 航平 44
- 「言葉のふれあい」————— 産業カウンセラー 中江 廣一 48
- 暴力に立ち向かう子どもの力を引き出す — CAP広島連絡会 代表 下西 さや子 50
- 心の叫びを受けとめるいのちの電話 ————— 広島いのちの電話 54

## ◎ちからをあわせて生きていく

- 「いのちと向き合う」————— 広島市佐伯消防団 江上 一信 58
- 思いやりの心が生んだホスピタルアート — 色彩プロデューサー 稲田 恵子 60
- チームワークでいのちを救う ————— 広島市消防局 64

## ◎いのちの尊さを伝えて生きていく

- 「祖母の涙」————— 庄原市立高野中学校 1年 古家 麻里絵 70
- 生きた証、いのちの尊さを次の世代に語り継ぐ — 尾道・生と死を考える会 代表 大谷 光弘 74
- おわりに ————— 76



やなせ



## 創作のテーマは「生きる」

やなせたかしさんが作詞した歌『手のひらを太陽に』は、45年もの間たくさんの人に愛されてきました。「この歌をつくって以来、ぼくはずっと“生きる”ということ、詩や漫画で表現してきました」。

いのちがあまりにも粗末にされる時代、やなせさんが劇場版アンパンマンの最新作[2006(平成18)年夏公開]のテーマに選んだのは、まさに“いのち”でした。「アンパンマンが助けた人形にいのちが宿るんだけど、可愛がられることしか知らなかった人形は、わがまま放題。やがて、アンパンマンの献身的な姿を見て、みんなのために尽くすことが

生きることだと気づくんです」。アンパンマンの主題歌で問いかけてきた、なんのために生まれて、なにをして生きるのか、その一つの答えが人のために生きること。

「アンパンマンの歌といえば、おじいさんが孫と遊んでいたとき、なんのために生まれて〜と歌いはじめてビックリしたらしい。哲学ともいえる人生の究極の問いが、4歳の口から飛び出したんだからね。そりゃ驚くでしょう」。子どもの頃、意味もわからずに歌っていた歌詞を思い出し、勇気づけられている中高生もたくさんいます。「白紙の魂にしみこむものだから、漫画に限らず、子どもに関わる人間には、良心的で面白いものをつくる責任があるんです」。



# たかし



## 子どもも大人も同じ人間

『手のひらを太陽に』も、アンパンマンの物語も、最初は大人向けにつくられたもの。幼児に人気が出てからも、赤ちゃん言葉は使わず、人として大切にしたいことをまっすぐに伝えてきました。

「アンパンマンのストーリーは、小さな子には難しいという声もあります。けれど、不思議なことに、それでも子どもたちは面白がっている。理屈じゃなく、伝えたいことの本質がわかるんだね」。

以前、広島でお母さんと赤ちゃんを前に講演会をしたときには、こんなエピソードも。「会場のうしろにベビーベッドを並べて、ぼくが話している間は、赤ちゃんはみんなきげんがよかった。お母さんたちの笑い声で、会場はかなり騒がしかったのに。ところが、ぼくの出番が終って次の人が話しはじめたら、いっせいに泣き出してしまった。空気が変わったのが、わかったんだろうね。お母さんと赤ちゃんは一心同体。お母さんが楽しく笑っていれば、赤ちゃんも幸せなんです」。

# 子どもの白紙の魂に、生

## やなせ たかしさん

1919(大正8)年、高知県生まれ。漫画家、絵本作家、詩人、作詞家、イラストレーターとして活躍。『やさしいライオン』『手のひらを太陽に』『アンパンマン』シリーズなど、その作品は赤ちゃんから大人まで幅広く愛されている。1996(平成8)年、高知県香美市にやなせたかし記念館「アンパンマンミュージアム」を開館。2000(平成12)年、日本児童文芸家協会児童文化功労賞受賞。



### 愛と、勇気と、正義は勝つ

やなせたかしさんは人権イメージキャラクター、人KENまもる君・人KENあゆみちゃんの生みの親でもあります。「もともとは、出身地の高知(地方法務局)から頼まれてつくったのが、これはいいってことで全国的なキャラクターになったんです。人権というと、どうも堅苦しいイメージがあるけど、すべての人が生まれながらにもっているもの。キャラクターができたおかげで、親しみやすくなった

と喜ばれました。『世界をしあわせに』という歌まで作詞・作曲して、ぼくも歌ってますよ」。キャラクターは日本全国で、子どもたちにも人権の大切さをわかりやすくメッセージしています。

「ある日突然、いじめがゼロになることはないでしょう。けれど、自分はしない、隣の人もしない…と、少しずつ良心の輪を広げていくことはできるはず」。そして、困難にぶつかっても、耐えること、生きぬく強さを教えることも愛情。「正義は勝つ。そんな世の中でなくては、いけないんです」。

きるよろこびを伝えたい。

# 西 城



## 楽しまなくちゃ続かない

「ぼくは後輩なんです。ジムに行くと中高年の人たちが生き生きとトレーニングをしていて、なかには大病を乗り越えた先輩もたくさんいらっしゃる。ぼくも今は、自分のペースでいねいにカラダを動かしています。そのほうがだんぜん気持ちいいんですよ」。2003(平成15)年に脳梗塞のうこうそくを発症。家族の支えと前向きなリハビリによって、

歌手として復帰した西城秀樹さんは、病気と付き合いながら、人生の後半に新たな楽しみを見つけて歩き出しています。

「美食になりました。といっても贅沢ぜいたくなものを食べるんじゃなく、素材にこだわったり、器うつわに凝こったり。たとえば、まっ黒な茶碗ちawanに白いごはん、ほうれん草のおひたしにはどの皿しらが合うかなって感じでね。スローフードだと思えば、すごくおいしいですよ」。



# 秀 樹



食事だけでなく、仕事と私生活、人間関係など、いろんな場面でバランスを大切にするようになったという西城さん。「あきらめちゃいけない。子どもの寝顔を見て、そう自分に言い聞かせてきました。でも、無理ばかりしてたら続かないんですよね。

どんな小さなことにも、楽しみを見つけてやってみる。だから、つらいリハビリも続けて来れたんです」。西城さんを励ましてきた『あきらめない』という言葉には、ゆっくりでも楽しみながら続けていこうというメッセージが込められていました。

# 人それぞれの「あきら

## 歌って、いいなあ

「病は気からというように、治すのも気なんですよね」と西城さん。リハビリの最中にレコーディングした1枚のCDが、歌うことの新たなよろこびを教えてくれ

ました。「このCDは非売品なんです。お世話になった方が、亡くなる前に息子さんに向けて書いた詩に、ぼくの甥が曲をつけ、ぼくが歌ってる。本当はまだ歌えるような状態じゃなかったけ

ど、やらなきゃいけないという気になった瞬間、全身全霊で歌に向かうことができた。言葉を一つ一つ、かみしめながらね」。



『青春』という曲の歌詞が、西城さんの心境にびたりと重なりました。「青春って言葉はあまり好きじゃなかったけど、この詩に出会って、ああそうかと心に響

いてきたんです」。～青春とは、人生のある時期ではなく心の持ち方をいう。老いて尚、若々しい人生もあり、一人一人違った年のとり方をする。心で感じる倖せが、私と君に通じ合えるなら人

情、機微きびにふれるだろう。(一部抜粋)～「歌って、いいなあ。歌えるって、幸せだなあ。素直にそう思わせてくれた、ぼくとって忘れられない曲です」。

# めない」がきつとある。

## 父親になってわかったこと

広島で生まれ育った西城さん。「亡くなった父は、憎いと思うほど厳しい人でした。でも、今思えばうまいバランスだったんですよ、父の厳しさと母の優しさが。それぞれ役割をきっちり演じてた。役者でもないのに、親ってすごい」。

西城さん自身も一女二男の父親になり、子どもには生きる強さを伝えていきたいと願っています。

「食事とか部屋の片づけとか、基本的なしつけにはけっこう厳しいですよ。頭ごなしに叱るんじゃなくて、納得するようお願い聞かせ、見守ってます。子育ても、

あきらめないことですね」。

逆に、子どもたちの純粋な心に教えられることも。「子どもでも大人でも、あきらめてはいけない何かが、それぞ



れあると思うんです。自分を変えたいなら、生き方をリセットする勇気も必要でしょう。失敗したっていい。やってみなければ、何もはじまらない。ぼくも今は、時間がもったいない

と感じてます。せっかくの一日をどう楽しく過ごそうか、そのためには何をすればいいのか。そう思うと、毎日が違ってきますよ」。

## 西城 秀樹さん

1955(昭和30)年、広島市生まれ。本名:木本龍雄。1972(昭和47)年「恋する季節」で歌手デビュー。ミリオンセラーとなった『YOUNG MAN(Y.M.C.A.)』をはじめ数々のヒット曲を生み、映画、舞台、ミュージカル、ドラマに幅広く活躍。2001(平成13)年美紀夫人と結婚。2003(平成15)年脳梗塞を発症。翌年『あきらめない～脳梗塞からの挑戦～』を出版。2006(平成18)年9月、復帰後初のシングルCD「めぐり逢い」を発売。

# 川

# 嶋

# あ

# い

## 川嶋 あいさん

1986（昭和61）年、福岡県生まれ。シンガーソングライター。3歳から音楽スクールで歌を学び、2002（平成14）年、高校に通いながら渋谷の町で路上ライブを開始。手売りでのCD発売5000枚、1000回の路上ライブ、渋谷公会堂でのライブという三つの大きな目標を達成。『天使たちのメロディー』『12個の季節～4度目の春～』など数々のヒット曲を生み、母との別れや路上の日々を綴った著書『最後の言葉』がベストセラーとなる。

# 「ありがとう」の気持ち、 挑戦する勇気を忘れない。

15歳の春、歌手になる夢だけを胸に上京し、何度もくじけそうになりながら、自分に課した1000回の路上ライブを達成した川嶋あいさん。“路上の天使”と呼ばれた少女は21歳になり、人として、歌手として一步一步成長しています。

**Q.1000回の路上ライブを達成した瞬間、何を思いましたか？**

A.「ちょっと、そう失感がありました。3年間ずっと目指してたものは1000回だったので、達成した喜びよりも妙な淋しさがありました」

**Q.目標を達成して、これから何のために歌って行こうと思っていますか？**

「応援してくれる人のためです」

**Q.今、生きているよろこびを感じるのは、どんなときですか？**

A.「やっぱりファンの人からの手紙や声。私の歌で救われる人がいるなんて、考えただけでこっちが励まされるし、一つ一つの歌に責任を持たないと、って思います」

**Q.いのちの大切さを思ったとき、まっ先に思い浮かぶ自分の曲は？**

A.「『Crying』<sup>\*</sup>です。ニュースや雑誌でしか見ることができない世界の現状への想いを、なんとか曲にしたいとかきました」

※2007(平成19)年発売のCD『My Love』に収録。君のために今何ができるの?〜と語りかける、川嶋あいさん作詞・作曲のバラード。

**Q.今までも、これからも、これだけは忘れてはいけないと、自分に言い聞かせていることは？**

A.「人への感謝の気持ち、挑戦する勇気」

**Q.夢を探している10代の人たちにメッセージを。**

A.「やりたいことを見つけるのも自分。夢を<sup>かな</sup>叶えるのも自分。すべて自分自身だから、自分に合うものを選んで、全力で頑張してほしいです!」

広島でも路上ライブをした経験を持つ川嶋さん。「寒い中、たくさんの方が集まって来てくれて、すごくうれしかったです。あとやっぱり、お好み焼きは最高です!」。

